



小田原 平塚・修善寺・粕久保正教会だより

2020年10月1日発行 第218号

# КРЕСТЪ クレスト

2020年10月号

司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-5079-3408

E-mail: [holyspiritodawara@gmail.com](mailto:holyspiritodawara@gmail.com)

教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

小田原正教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

郵便振替口座(小田原): 00270-6-15226



聖堂のドーム

てん 天には光栄、  
 ち 地には歡樂あり、  
 けだしによおう 蓋女王は諸聖人と偕に  
 われらしゅう 我等衆の為に聖堂の中  
 いのたま に祈り給ふ。

生神女庇護祭 晩課より

聖堂全体をカメラに収めるのは実に難しい。複数のアーチの上に乗っかっているドームは天上を象り、その多くにはそれを具体化するフレスコ画が描かれている。ドームの上には全治者ハリストス、その下にはハリストスに向かって私たちと共に絶えず祈る生神女マリヤ、救世主の出現を宣べてきた諸預言者、そして十二使徒らが描かれている。聖堂内のイコンと祈禱の言葉と聖歌は祈りのハーモニーを生み出す。

## ●五旬祭後第 17 主日聖体礼儀 (第 8 調)

10月4日(日) 10:00～(9:30 痛悔)

使徒経: コリフ後書 182 半端(6:16-7:1)

福音経: マトフェイ 62 端(15:21-28)

## ●平塚 地区信徒集会 (10:00 予定) 詳細は平塚信徒に連絡します

## ●五旬祭後第 19 主日聖体礼儀 (第 2 調)・月例パニヒダ

10月18日(日) 10:00～(9:30 痛悔)

使徒経: コリフ後書 194 端(11:31-12:9) 福音経: ルカ 26 端(6:31-36)

## ●五旬祭後第 20 主日聖体礼儀 (第 3 調)

10月25日(日) 10:00～(9:30 痛悔)

使徒経: ガラティヤ 200 端(1:11-19) 福音経: ルカ 33 端(7:11-16)

## 正教会によろこそ 9

(先月号からの続き) 文化的背景による習慣の違いこそありますが、組織上の統括の仕方がそれぞれ異なるだけで教義の違いはありません。…ちょうど移民たちがアメリカを彼らの住まいとして溶け込んでいったように、いつかはアメリカにある各正教会も同じように溶け合っていくのではないのでしょうか。組織的な歯車のスピードとは別に、少なくとも各地方教会レベルでは様々な国から来た人々が各自の正教文化を積極的に分かち合っています。

将来統合という時が来るまでは、ギリシア正教会やアンティオキア正教会など、それぞれの団体を「教区」と呼んでいます(例えば、『ギリシア正教会北アメリカ大主教区』のように)。決して「教派」ではありません。お互いに同じ祈禱式を持ち、同じ信仰を持ち、同じ霊的歩みを持っています。またお互いの教会で領聖すること(ご聖体をいただくこと)が許されています。アメリカでは、ほとんどの正教会で祈禱に英語が使用されています。(この本の中の聖フェリシティ正教会に特別な民族的背景は設定していません。敢えて様々な正教国の文化を取り入れて記述するようにしています。)

聖所に入ると、高い天井と頭上のドームの

ためか、思っていた以上に広い空間だと分かります。聖所の形状はちらっとみただけでは把握することができません。丸いアーチ、円筒状の柱、至聖所の中央から外に向かって突出する半球状の空間など、聖所の中を見回すと様々な曲線があります。もう少し進んで天井にあるドームの真下まで歩いて行きましょう。するとここが十字形をした聖堂の中心であることが分かります。四方の柱が作り出す空間(ベイ=柱間/梁間)は前方は至聖所まで、また後方は啓蒙所まで延びています。右手方向も左手方向も同じように延びています。…

正教会の聖堂は他にも様々な形で建てられていますが、このギリシア十字型が最も伝統的と言えるでしょう。ベイをさらに増やして八角形に見えるものや円形に見えるものもあります。そういったベイの集合ごとに小さなドームを作っているものもあります。ドームの高さはそれぞれ異なり、外から見ると各ドームに異なる色が施させていることもあって、大変複雑な構造のように見えます。モスクワの赤の広場に建つ「聖ワシリイ大聖堂」の中央にはギリシア十字様式の主聖堂がありますが、他にも複数のベイが作る小聖堂があつて、





聖ワシリイ大聖堂（モスクワ）

それぞれの上には雪よけの働きをする「玉ねぎドーム」が色彩豊かに載せられています。外から見たその姿は、ロウソクの炎とも表現されています。

一つの教会で一通りのイコンを揃えるのにはかなり費用が掛かりますが、この聖フェリシティ聖堂は架空の聖堂なので、素晴らしいイコンが揃っています。教会の歴史と聖書に記された場面とその登場人物が、聖堂内のあらゆる壁や天井や柱を覆っています。この内装が、ただでさえ内部の形状を把握するのが難しいところを更に難しく見せます。それでも空間を包むドームと聖堂内に見られる曲線には親しみを覚えさせられます。壁や柱に全身が描かれた聖人は等身大で、そこで祈っている人は本当に聖人たちがその場にいるのではないかという気持ちにさせられます。

私たちが今立っている聖所で最も目を引くのは、聖所と至聖所の間に立つ壁のような間仕切りです。イコンで飾られたこの仕切りはイコノスタシスやイコノスタス（聖障）と言い、「イコン立て」というギリシア語を語源としています。イコノスタシスは聖所と至聖所を区切るテンプロンという背の低い壁の上に成り立っています。…時代が下ると、イコノスタシスはよ

りたくさんのイコンを立てられるように高さが増し、結果的に現在のようになりしました。（イコノスタシスについては8章でもう少し詳しく見ていきましょう。）

次に、もう気がついている人もいることと思いますが、見回してみると椅子がそんなにありません。両壁に沿ってベンチのような椅子がありますが、聖所の真ん中にはただ絨毯じゅうたんが敷かれていて、がらんどうになっています。そのような理由で祈禱に使用する書冊類けいもうしょは啓蒙所に置かれていたのです。椅子の背の書冊入れもなければ椅子の背もなく、椅子すらない、というわけです。

もしヨーロッパの壮麗な大聖堂そうれいに足を踏み入れたことがあれば、そこにも椅子がなかったことをご存知でしょう。実は教会の中で椅子に座るのは、かなり最近になってはじめてされました。そもそも、使徒から始まった最初の150年間の集会の目的は、神が見える形で現れること、つまり普通のパンとぶどう酒が神の血と肉になって食されるものとなる、これに尽きるのです。それに気持ちを集中したいがため、集会に参加する人々が起立し続けたということは、私たちにも理解できることです。考えてみたら、神がご自身のお身体を食物として人々に、最低の罪人にでさえ差し出すということは驚愕きょうがくの事態ですから。（続く）

## 最近の出来事・消息

**小田原・平塚** 前晩禱 ただいま小田原教会では、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、前晩禱の時間短縮を試みています。常時の土曜夕方は120分強の時間を要する徹夜禱を行っていますが、月間活動予定表のとおり、信徒が参禱する祈禱は「晩課のみ」「早課のみ」にし、大祭の前晩禱には徹夜禱を行っています。前晩禱は聖体礼儀の半分以下の人数で祈禱しています。日曜日がお仕事で参禱できない方や人が少ないところで祈禱したい方、前からちょっとだけ覗いてみたかった方、是非お越しください！

**主日聖体礼儀** 9月6日(日)10時より、第13主日聖体礼儀が行われました。新型コロナウイルス感染防止対策をとった聖体礼儀も早3か月が経過し、マスク着用の奨励(マスクが出来る方へ)や手指の消毒や換気、また臨時に用いられている紙ナプキンや口すすぎワインの紙カップの使用にも慣れてきました。教会は聖いだからこそそのようなウイルスの不安はないのではないか、という意見もあります。計り知れない神の業は確かに存在しますが、私たち自身が一般社会への不安要素になってはならないという考えから、今は伝統的なスタイルをしばらく我慢して、この方法で対応して参ります。また、この日は翌週に日本正教会聖自治五十周年を控えた日曜日でした。司祭は、「私はこの聖堂になってから6代目(補足:小田原正教会建立から数えると11代目)の神父であり、この聖堂と同じ年である。従ってこの50年間の一部しか知らない。皆さんの中には教団と小田原教会の50年の思い出がある方が多くおられる。自分も含めこの50周年記念を痛悔と感謝をもって過ごしたい。そして、後世に残す教会のために祈りましょう。」というメッセージを伝えました。

**聖十字架挙栄祭** 9月26日(土)17時から祭日の前晩徹夜禱が行われました。祈禱の後半で、聖なる十字架が聖堂中央に捧出され、皆で伏拝しました。翌日27日(日)は聖体礼儀を行いました。詳しくは来月号にてご報告いたします。

**柏久保・修善寺** 両教会とも、東京復活大聖堂で行われた聖自治五十周年記念式典の為、祈禱はありませんでした。次回は柏久保教会と修善寺教会合同で10月11日(日)10時から聖体礼儀の予定です。新型コロナウイルス感染防止対策は引き続き行っていますが、体調がすぐれない方は無理せず家でお祈り下さい。なお感染状況に関する司祭の判断により予定を変更することもございます。ご了承ください。柏久保教会では、今回集まって境内地整備を行うことが困難だったため、市のシルバー事業に依頼して境内地の伸びた枝を伐採しました。



**永遠の記憶** あいみゲオルギイ 會見 兄(東京) 9月16日に永眠されました。埋葬式前晩のパニヒダおよび埋葬式は、実弟ミハイル會見兄の要望により、9月18日(金)19日(土)、東京復活大聖堂にて行われました。ミハイル會見兄の希望により、ご永眠後、小田原の聖堂で納棺、一晚滞在してから大聖堂に移動されましたので、ご報告いたします。永遠の記憶をお祈り申し上げます。

## —アイコンペンダントの贈呈—

至聖三者の御名に由りご平安をお祈り申し上げます。

コロナ禍という厳しい状況の中にあつて、人々が教会に向かうことも司祭が廻家祈禱に伺うことも難しい年となりました。そこで、今年は生神女誕生祭に際し、2020年中に80歳以上であられる兄弟姉妹と、半年以上集会が望むように開催できなかった平塚教会の信徒家庭に祈りの気持ちを届けたく、生神女のアイコンのペンダントを教会から贈呈致します。

少しでも皆様のうちに救主の平安と恩寵が賜り臨みますことを心よりお祈り申し上げます。

2020年9月21日(生神女誕生祭)

## 小田原ハリストス正教会ホームページ/ニュース

<http://odawara-orthodox.com/>

会報はもちろんのこと、より情報を増やし、かつ見やすくしました。またスマートフォンからも扱いやすくなりました。今後、もう少し情報量を増加する予定で、時々アクセスできなくなることがありますがご了承ください。「これならば紙媒体の会報は不要です」という方がおられましたら、お手数ですが教会までご連絡ください。

### 献金報告

9/20 現在 日付は会計処理日です。ありがとうございました。

日付	氏名	摘要
7/29	安達 紀彦兄	パニヒダ献金
8/16	廣石 真太郎兄	パニヒダ献金
	日比野 俊二兄	パニヒダ献金
8/23	由良 キン子姉	会報献金
	ビクトルアレニコフ兄	パニヒダ献金
8/30	山崎 バレンティナ姉	パニヒダ献金

日付	氏名	摘要
8/30	神谷 綾子姉	パニヒダ献金
9/20	渡辺 和枝姉	パニヒダ献金
	渡辺 和枝姉	感謝献金
	神谷 忠明兄	パニヒダ献金
	廣石 真太郎兄	パニヒダ献金

### 婦人会献金

日付	氏名	摘要
9/20	渡辺 和枝姉	

多くの皆様から定額献金を拝受しております。定額献金につきましては、献金袋への受領印、または領収書を会報に同封しますのでご確認ください。日頃より教会をお支え下さり、心より感謝申し上げます。



【2020年10月】小田原・平塚ハリストス正教会月間活動予定表

日 曜日		祈禱・行事・集会	主日調/聖書の読み
1	木	[東京]	10/4 第8調
2	金	[東京]	使徒経：コリ後6：16-7：1 福音経：マト 15：21-28
3	土	主日前晩禱(早課 17:00)	●婦人会昼食当番 昼食はありません
4	日	五旬祭後第17主日聖体礼儀(10:00)	
5	月		
6	火	[東京]	
7	水	[東京]	
8	木	[東京] <small>ラドネジの聖セルギイ祭</small>	
9	金	[東京]	
10	土	[東京]	
11	日	[午前:修善寺・柏久保聖体礼儀 午後:私祈禱]	
12	月	[伊豆]	
13	火	[東京]	10/18 第2調
14	水	[東京] <small>生神女聖誕祭</small>	使徒経：コリ後 11:31-12:9 福音経：ルカ6：31-36
15	木	[東京]	●婦人会昼食当番 昼食はありません
16	金	[東京]	
17	土	平塚地区信徒集会(10:00予定) 主日前晩禱(晩課 17:00)	
18	日	五旬祭後第19主日聖体礼儀(10:00)・月例パニヒダ	
19	月		10/25 第3調
20	火	[東京]	使徒経：ガラ1：11-19 福音経：ルカ7：11-16
21	水	[東京]	●婦人会昼食当番 昼食はありません
22	木	[東京]	
23	金	[東京]	
24	土	[小田原:私祈禱(横浜外人墓地)]	
25	日	五旬祭後第20主日聖体礼儀(10:00)	11/1 第4調
26	月		
27	火	[東京]	
28	水	[東京]	
29	木	[東京]	使徒経：ガラ2：16-20 福音経：ルカ8：5-15
30	金	[東京]	●婦人会昼食当番 昼食はありません
31	土	[修善寺]墓地祈禱	

\* [ ]内は司祭または教区の活動 \*

\* 聖体礼儀に参禱し領聖するときは、前日から十分に節制しましょう \*

\* ここには主日の聖書の読みが記載されています。お手持ちの聖書を読むときに活用して下さい。 \*

## 10月の永眠者一覧

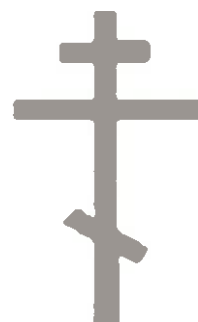
永眠日	聖名	氏名	永眠年	縁故者
30日	長司祭グリゴリイ	内藤 三雄	1981年	内藤 直樹
1日	ミハイル	假野 松樹	2001年	假野 美枝
1日	マリア	松田 マリア	2019年	松田 亨
2日	ニコライ	渡辺 忠	1923年	渡辺 宏
2日	ノンナ	田村 清子	2009年	吉竹家
4日	イオアン	重田 恒吉	1929年	重田 博
5日	ロマン	山口 活次	1889年	山口 晃
5日	グリゴリイ	飯塚 正男	2004年	山本 保
6日	マトフェイ	小杉 実	1936年	小杉 悦子
7日	フォカ	廣石(赤子)	1909年	廣石 利恵
8日	ミハイル	中根 藤吉	1989年	
8日	アルセニイ	秋澤 英治	2011年	
9日	シメオン	澁谷 正男	1989年	澁谷 道子
12日	ニコライ	廣石 大介	2014年	廣石 清子/由美子
17日	イサアク	山口 以撒	1892年	山口 晃
18日	アレキセイ	日比野 平蔵	1955年	日比野 勇
18日	マリヤ	多喜 かく	1997年	廣石 利恵
18日	イリナ	石井 愛子	2018年	石井家
19日	マルコ	澁谷 新治	1966年	澁谷 道子
20日	エレナ	内藤 澄子	1922年	内藤 直樹
22日	マリア	新坂 真理	2019年	新坂 秀男
23日	イアコフ	紺野 雅治	1925年	紺野 雅章
23日	イアコフ	石井 勝治	1946年	石井家
25日	ニーナ	内藤 和子	2008年	内藤 直樹
25日	ルカ	山本 繁	2012年	山本 保
26日	ニカ	山口 かつ	1988年	山口 晃
27日	パウエル	中島 基一	1946年	岡野 康子
27日	ルカ	澁谷 政吉	1925年	澁谷 道子
27日	オリガ	上野みゆき	1985年	上野 攻
30日	ワルワラ	中島 たま	1946年	岡野 康子
30日	ナデジダ	吉竹 恵子	1999年	吉竹家
30日		川辺 久雄	1991年	川辺 康弘

### 十字架

十字架はキリスト教が最も用いるシンボルです。非常に興味深いことに、聖書には十字架をシンボルとしなさいとは記されていませんが、十字架をシンボルとしないキリスト教派はありません。比較的早い時期から、ハリストスの十字架には力がある、と十字をかく習慣があったと言われていました。

十字架には様々な形がありますが、私たち日本の正教会では右図にある「八端十字（ロシアン・クロス）」がよく見られます。この十字架は聖書の記述を忠実に再現しているのが特徴です。ハリストスが架かった十字架の頭上には「ナザレのイエス ユダヤの王」と書かれた罪状札が付けられ、足元には足台がついていたことからこの形になりました。その足台がハリストスの右手側を上にして傾いているのは、ハリストスの左右と一緒に十字架にかかった罪人のうち、右の罪人がハリストスに向かって自分の罪を認めて「天国で私を記憶して欲しい」と言ったことで、その罪人が天に昇ったことを意味しています（ルカ 23:39～）。この形の十字架を用いるのは主にスラブ（ロシア）系の教会で、他にも上下の長さが同じ十字架や典型的な形の十字架など、世界中の正教会をみると十字架の形には色々あるのが分かります。

正教会では十字架にハリストス像が付けられているものは用いません。十字架にハリストスの絵が描かれているもの、リリーフ（彫刻）が施されているものは認められています。我が家の十字架はこれでいいのだろうかと心配でしたら、遠慮なく神父に聞いてはいかかでしょうか。ちなみに神父は八端十字架だけでなく、いろいろな国の正教の兄弟姉妹が下さったいろいろな形の十字架を大切に持っています。



## 日本正教会聖自治五十周年記念式典

### 聖ニコライ列聖五十周年・ロシア正教会日本伝道団創設百五十周年

約二年間の準備期間を経て2020年9月13日(日)に開催された記念式典は、新型コロナウイルス感染の世界的拡大によるキリル総主教訪日の延期により、ダニイル府主教座下、セラフイム大主教座下の決定で、規模を極力制限し行われました。両主教座下はじめ、各教区宗務局長と信徒代表、東京復活大聖堂教会神品と信徒、ロシア正教会駐日代表部神品と信徒、ロシア連邦大使館関係者が東京復活大聖堂に集い、聖体礼儀と聖ニコライへの感謝祈禱を行いました。



聖体礼儀に続く記念式典では、両主教座下の祝辞、ロシア連邦大使の祝辞と共に、キリル総主教聖下のメッセージが読まれました。日本正教会の全神品信徒に宛てられたメッセージの中で、総主教聖下は、聖ニコライの偉業を称えつつ、自分の心は常に日本正教会と共にあることを述べられました。その後、谷中墓地にて、聖ニコライ列聖五十周年を記憶する感謝祈禱をもって閉式しました。日本正教会の聖自治五十周年を神に感謝し、これからの歩みに神の恩寵を賜ることを聖ニコライと共に祈る式典でした。

